

神出シニアコミュニティ

令和2年度事業報告

< 施設理念 >

私たちはご利用者やご家族に安心していただけるようサービスの向上に努めるとともに、ご利用者との心と心が触れ合う施設を目指します

< 基本方針 >

1. 私たちは、専門職として向上心を持ち、知識の習得に努めます
2. 私たちは、専門職として向上心を持ち、技術の習得に努めます
3. 私たちは、専門職として真心込めた、温もりあるサービスを提供します

< 従業員数 > *全事業所

正職員 59名 (男16名 女43名)

P職員 38名 (男10名 女28名) 合計97名

●施設本部

今期のテーマ 継続とアウトプット

- 今期計画
1. 指導者の育成
 2. 労務管理・職場環境の改善
 3. 管理体制の強化
 4. 地域貢献の充実

1. 指導者の育成

介護福祉士実習指導者講習会に参加し、指導者としてのノウハウを学んだ。

実習生の受入、新人職員の指導担当者に任命し、実践する事で、他の職員にアウトプットを図る。新人職員指導については、統一した指導が出来ず、新人職員が困惑する内容が見受けられた。フロア内の進捗状況や指導内容を共有し指導する事が課題である。

2. 労務管理・職場環境の改善

※有給休暇平均取得率 約35%（退職者消化含む）

年間5日取得は達成するものの、取得日数の差が開いた結果となった。他の職員の事も考えた休暇の取得を促していく。

※管理職向けのハラスメント・コミュニケーション研修（外部講師）を実施し、ハラスメントに対する知識の向上を図る

一般職員向けにはコミュニケーション研修（外部講師）を実施し、職場環境の改善に向けた知識の習得を図った。

3. 管理体制の強化

委員会については、委員長が中心となり、定期・随時委員会を開催した。

新型コロナウイルス感染症に対するマニュアルの整備に努め、情報共有・実地研修を行い感染者発生時の対応体制を整えている。

4. 地域貢献の充実

新型コロナウイルス感染が蔓延し、地域行事等の中止が相次いだ。

当面の間、中止・縮小が相次ぐことが見込まれる為、その中で高齢者施設として地域に出来る事を考え実施していく。

令和2年度外部研修参加者一覧

日程	研修名	参加者	場所
9月29日	介護事務講座	河口 幸美	こうべ市民福祉交流センター
10月9日	年末調整概要セミナー	河口 幸美	施設内 (ZOOM 研修)
10月16日	神戸市自立支援型ケアマネジメント研修	吉田 敦子	医師会館市民ホール
10月24日	新型コロナウイルス感染症について	西畑 健人	施設内 (ZOOM 研修)
10月29日	職務と倫理観について	堀 和代 西山 理恵子	施設内 (ZOOM 研修)
11月6日 11月20日 12月4日	面接相談スキルアップ	林 大輔	こうべ市民福祉交流センター
11月12日	神戸市認定調査員現任者研修	井口 富美江	
11月17日	特養入所担当、ショート担当 責任者会議	林 大輔 大西 沙也香	施設内 (ZOOM 研修)
11月27日	雇用管理総論	河口 幸美	三宮コンベンションセンター
12月14日	外国人介護人材技術研修	チュチュジン	施設内 (ZOOM 研修)
1月21日	第13回多職種勉強会	西山理恵子	施設内 (ZOOM 研修)
1月27日	すべての人に求められるリーダー シップマインド	黒木俊雄	施設内 (ZOOM 研修)
2月3日	ノロウイルス食中毒予防研修会	横山晶子 安藤あけみ 藤本立子 河口幸美	施設内 (ZOOM 研修)
2月10日	介護保険施設編介護報酬改定のポ イント解説	東谷友和	施設内 (ZOOM 研修)
2月19日	ポジショニング研修会	中森圭那絵、久富 木祐子	施設内 (ZOOM 研修)
3月13日	令和3年度介護報酬改定に備えた 栄養管理研修	横山晶子	施設内 (ZOOM 研修)
3月18日	西区第8回多職種連携辞令検討会	中嶋健一郎	施設内 (ZOOM 研修)
3月20日	介護保険制度改正等の説明会	堀和代	施設内 (ZOOM 研修)

令和 2 年度施設内研修参加者一覧

日程	研修名	参加者	開催方法
5月11日 5月20日	看取り	45名	レポート提出
6月8日 6月17日 6月26日 7月6日	虐待防止 身体拘束廃止	113名	会場 88名 レポート提出 25名
7月13日 7月22日	感染症対策	44名	会場
8月10日 8月19日	事故発生防止	84名	新型コロナ感染症対策動画視聴
9月14日 9月23日	認知症ケア	47名	レポート提出
10月12日 10月21日	褥瘡予防対策	30名	レポート提出
11月9日 11月18日	感染症対策	40名	会場
12月14日 12月23日	虐待防止 身体拘束廃止	116名	レポート提出
2月23日 2月25日	事故発生防止	40名	会場

延べ参加人数 471名

● 特別養護老人ホーム

特養入所定員	100名
SS入所定員	20名
介護正職員数	36名(男11名 女25名 介護福祉士有資格者30名)
介護P職員数	20名(男1名 女19名 介護福祉士有資格者6名)
看護師職員数	8名(正5名 P3名)

< 相談員 >

今期のテーマ 相談員間の情報を共有し稼働率の向上に繋ぐ

- 今期計画
1. 総稼働率97.5%
 2. 利用者・家族の意向や思いの把握

1. 総稼働率97.5%

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総稼働率	96.72	96.34	96.14	96.37	97.18	94.81	96.67	98.22	97.04	96.56	98.57	100.89
特養	95.90	96.35	95.83	95.13	94.97	93.00	94.19	96.57	96.35	95.45	97.07	98.13
ショート	100.83	96.29	97.67	102.58	108.23	103.83	109.03	106.50	100.48	102.10	106.07	114.68

今期計画として総稼働率97.5%を目標としていたが、今期総稼働率累計が97.12%にとどまった。目標未達成の要因として、特養では骨折や肺炎での入院等長期入院が必要となったご利用者が複数あった事や、入院期間が長期となった後に退所する事となった方もおり、目標未達成の要因として考える。ショートステイに関しては、新型コロナウイルスの影響で、サービス事業所の1本化の推奨や利用を控えられる方もあり、目標稼働率である103%を割る月も見られた。

来期においてもコロナ禍の中、感染予防を考慮しながら目標達成となるよう相談員間で情報共有し特養入所者・ショートステイ利用者のベッド調整を行っていく。

2. 利用者・家族の意向や思いの把握

今期はコロナの影響でご家族参加して頂いての行事が行えず、また面会に関しても制限や中止で、ご家族が来所してのコミュニケーションをほとんどとる事が出来なかったが、電話やオンライン面会時に出来る限り状態の報告や思いを伺うよう心掛けた。

ご利用者・ご家族共に面会出来ない事への不安等あるなか、施設内行事で撮影した写真を一言添え郵送した事で、「元気そうで安心した」等のお手紙や労いの言葉を多く頂いた。

来期面会等に関して同様の状態が予想される為、出来る限りの方法手段でコミュニケーションを図っていききたい。

【特養】

今期のテーマ 多職種との連携を図りスムーズな入所受入れを行う

- 今期計画
1. 実質稼働率96.5%の達成
 2. 入所検討委員会の充実

1. 実質稼働率96.5%の達成

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
契約者数	99名	100名	98名	99名	100名	99名	100名	100名	100名	100名	98名	100名
稼働率%	95.90	96.35	95.83	95.13	94.97	93.00	94.19	96.57	96.35	95.45	97.07	98.13
退所者数	2名	1名	5名	1名	0名	3名	3名	2名	1名	5名	3名	1名
新入所者数	1名	2名	3名	2名	1名	2名	4名	2名	1名	5名	1名	3名

年間稼働率が95.74%と稼働率目標の96.5%には至らなかった。

入所希望者にショート利用を勧める事で、状態の把握が出来、退所者が発生後早期に入所に切り替える事が出来たが、新型コロナウイルス等感染予防もあり、入院者発生時の空床利用や退院時の隔離期間等ベッド調整がスムーズに行えなかった事も、目標達成に至らなかった要因と考える。来期は入院者の状態や入所希望者の状態把握していき、ショートステイを含め総稼働率向上に努めていく。

2. 入所検討委員会の充実

定例会議 ⇒ 12回開催

適宜会議 ⇒ 11回(6/16・8/31・11/2・11/13・12/7・1/11・1/18・1/25・2/15・2/22・3/5)

今期退所者の退所事由として入院先での死亡、又は長期入院による退所件数が7割近くとなり、退院の見込みや入院中の状態を病院やご家族に確認し、退院が困難な状態等となれば、早期に次期対象者の受け入れ準備をすすめる。

早期に受け入れ行う為にも、待機者の動向を把握し、適宜会議を行い判断していく。

【ショートステイ】

今期のテーマ 年間稼働率103%達成

- 今期計画
1. 空き情報の提供
 2. 居宅との情報共有と連携

《実績》年間平均稼働率 103.97%

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用者数	605人	597人	584人	636人	671人	623人	673	641人	621人	634人	594人	711人
稼働率%	100.8%	96.3%	97.3%	102.6%	108.2%	103.8%	108.5%	106.8%	100.2%	102.3%	106.1%	114.7%

1. 空き情報の提供
2. 居宅との情報共有と連携

稼働率実績は目標を達成することが出来たが、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言の自粛や他施設での感染者発生による自宅待機もあり、稼働率が低迷している時期もあった。特養入所待機者が安定しており、入院者の空床を利用したショートステイ受け入れを柔軟に対応できた月は稼働率が伸びているため、今後も安定して定着して利用して頂くことが必要だと感じる。

空き情報の提供は自粛期間等もあり積極的に行えていない。今後は利用者の健康面や他施設での利用状況を把握し、発信できるように各居宅と情報共有を密にして対応していく。

特養 稼働率

令和2年度

月	要介護1		要介護2		要介護3		要介護4		要介護5		計			稼働率 %
	実人数	実日数	実人数	実日数	実人数	実日数	実人数	実日数	実人数	実日数	実人数	実日数	実日数	
	人	日	人	日	人	日	人	日	人	日	人	日	/月日数	
R2.4	0	0	2	60	29	786	34	930	36	1066	101	2842	94.7	95%
5	0	0	2	62	28	837	33	933	38	1135	101	2967	95.7	96%
6	0	0	2	33	28	836	33	934	40	1048	103	2851	95.0	95%
7	0	0	2	31	27	820	33	988	38	1091	100	2930	94.5	95%
8	0	0	2	35	28	821	31	945	39	1084	100	2885	93.1	93%
9	0	0	2	60	29	769	32	888	39	1049	102	2766	92.2	92%
10	0	0	2	62	32	864	31	873	38	1092	103	2891	93.3	93%
11	0	0	2	60	31	877	32	900	37	1057	102	2894	96.5	96%
12	0	0	2	62	30	886	32	926	37	1076	101	2950	95.2	95%
R3.1	0	0	2	62	30	908	35	905	38	1063	105	2938	94.8	95%
2	0	0	2	56	31	824	32	855	26	974	101	2709	96.8	97%
3	0	0	2	62	31	930	32	959	36	1080	101	3031	97.8	98%
合計	0	0	24	645	354	10158	390	11036	452	12815	1220	34654	94.9	95%

31年度	0	0	33	977	348	10152	437	11837	391	11422	1209	34388	94.0	94%
------	---	---	----	-----	-----	-------	-----	-------	-----	-------	------	-------	------	-----

特養 入退所の状況

令和2年度

月	新規入所者							退所者						入院者(人)
	在宅	その他				病院	計(人)	家庭復帰	医療機関入院	他施設への転出	死亡	その他	計(人)	
		他の福祉施設	特養	グループホーム	老健									
4	1						1				2		2	4
5	2						2				1		1	4
6	3						3		1		4		5	4
7					2		2		1				1	5
8	1						1						0	8
9	1					1	2		2		1		3	6
10	3					1	4		1		2		3	5
11	1				1		2				2		2	3
12					1		1		1				1	5
1	4					1	5		3		2		5	3
2	1						1		1		2		3	2
3	2				1		3		1				1	2
合計	19	0	0	0	5	3	27	0	11	0	16	0	27	51

毎月末時人数

特養 年齢・在所期間一覽

年齢別性別状況（特養）（契約者数 100名）

（令和3年3月31日現在）

年齢 性別	64 才 以下	65 才 69 才	70 才 74 才	75 才 79 才	80 才 84 才	85 才 89 才	90 才 94 才	95 才 100 才	100 才 以上	合計	平均	最高	最低
男	1	2	1	2	5	5	6	1	0	23	82.9	96	57
女	0	1	6	4	10	26	16	11	3	77	87.5	104	67
計	1 人	3 人	7 人	6 人	15 人	31 人	22 人	12 人	3 人	100 人	86.4	104	57

在所期間状況（特養）（契約者数 100名）

（令和3年3月31日現在）

期間 性別	1 年 未 満	2 年 未 満	3 年 未 満	4 年 未 満	5 年 未 満	6 年 未 満	7 年 未 満	8 年 未 満	9 年 未 満	10 年 未 満	10 年 以 上	合計
男	8	2	3	0	3	0	1	1	2	2	1	23
女	16	9	11	8	5	10	5	3	2	2	6	77
計	24 人	11 人	14 人	8 人	8 人	10 人	6 人	4 人	4 人	4 人	7 人	100 人

特養 外泊・初期加算

〔上段 実人員〕
〔下段 延日数〕

令和2年度

月	要介護1		要介護2		要介護3		要介護4		要介護5		小計		外泊加算 合計	初期 加算
	外泊	入院	外泊	入院	外泊	入院	外泊	入院	外泊	入院	外泊	入院		
4						3		2		1	0	6	6	3
						18		11		6	0	35	35	33
5								3		1	0	4	4	1
								18		6	0	24	24	22
6				1				1		3	0	5	5	1
				6				6		14	0	26	26	15
7						1		1		2	0	4	4	3
						3		4		12	0	19	19	49
8						3		2		5	0	10	10	5
						18		11		30	0	59	59	53
9						2		2			0	4	4	4
						12		12			0	24	24	75
10								4		1	0	5	5	4
								24		6	0	30	30	68
11										1	0	1	1	5
										4	0	4	4	64
12						1		1		4	0	6	6	3
						6		6		24	0	36	36	52
1						1		2		1	0	4	4	4
						6		10		4	0	20	20	45
2								1		1	0	2	2	3
								6		3	0	9	9	54
3										2	0	2	2	3
										11	0	11	11	38
合計	0	0	0	1	0	11	0	19	0	22	0	53	53	39
	0	0	0	6	0	63	0	108	0	120	0	297	297	568

特養 栄養・看取り・看護加算

令和2年度

月	栄養マネジメント 加算 日	口腔衛生 管理体制 加算 人	口腔衛生 管理加算 人	療養食加算		経口移行加算		経口維持加算 I 人	看取り介護加算					看護体制加算 I・II 日
				人	日	人	日		人	(1) 日	(2) 日	(3) 日	計 日	
4	2842	100	8	3	270	1	30	5						2842
5	2967	98	8	3	279	1	31	4						2967
6	2851	100	8	3	273	1	30	4	1	27	2	1	30	2851
7	2930	96	8	2	186	1	31	3						2930
8	2885	100	8	2	186	1	31	4						2885
9	2764	95	8	2	180	1	30	4						2766
10	2890	99	8	2	186			3						2891
11	2894	100	8	3	217			3	1	3	2	1	6	2894
12	2950	98	8	4	326			2						2950
1	2936	102	8	4	372			2	1	5	2	1	8	2938
2	2708	98	8	4	295			2						2709
3	3031	99	8	4	344			2						3031
計	34648	1185	96	36	3114	6	183	38	3	35	6	3	44	34654

< 介護 >

今期のテーマ 「恕」の心 ～自分がしてほしいくないことは、人にはしないこと～

今期計画 より良い生活を目指す

より良い生活を目指す

① 接遇力の強化

接遇委員会の開催がなく、見直し、現状の確認、対策ができなかった。

職員の身だしなみは規律を守り整えることができていると、挨拶も職員間では積極的に交わっていた。フロアに出てから利用者に対する挨拶は、できる職員、できない職員と差があったように感じる。訪室時のドアノックは、できるようになった。来年度は、委員会活動を充実していく。

② 当たり前のケアが当たり前にできる風土作り

当たり前のケアに関して自分では良かれと思っても一般的にはダメなことといったように個人差がある。誰がチェックするか、それをどう発信していくか等の機能が不足していた。

フロア会議、副主任会議で当たり前のケアを皆ができるように、フロア会議、副主任会議で話し合いながら、浸透していくようにしていく。

③ レクリエーションの実施など生活に変化をもたらす。

新型コロナウイルス感染症対策として、外部ボランティアの来園を中止したことで、一部のクラブ活動、催しが中止することになってしまった。しかし、職員でできる行事、クラブ活動は継続して実施できた。毎週月曜日の喫茶は、利用者に好評である。来年度は、担当配置、計画を立てる等の環境を整え実施していく。

④ 1 ランク上の生活、ケアを実践する

利用者の単調な生活が多かった。継続して「考える介護」、「根拠ある介護」をフロア会議等で発信していき、一人でも多く実践できるようにしていく。ケアの平準を維持できるように虐待防止委員会で不適切なケアを確認し、今以上の良いケア、良い生活を目指していく。

各フロアの今期目標・計画

【 本館1階振り返り 】 マスクの着用や手指の洗浄、消毒といった感染症対策がしっかりととれ、本年度は感染症の発症を大きく防ぐことができたと感じる。その重要性を再認識し、ご利用者、職員が今後も健康に過ごせるよう感染症対策に取り組んでいく。

【 本館2階振り返り 】 紫斑や剥離があるのにも関わらず報告書にあがらないことがあったが、意識を変えることで早急に報告書にあげることができるようになった。事故の考えられる要因は、まずは職員にないかという目線が持てるようにしたい。

【 北館1階振り返り 】 状態の変化に応じたケアの見直しを工夫しながら行えたように感じる。今後も職員同士の意見交換を行い、ご利用者、ご家族にとって安心して過ごせる環境を提供していく。

【 北館2階振り返り 】 ご利用者との会話や様子から気になったことや、感じたことを職員間で伝達、相談できていました。今後ご利用者、職員間のコミュニケーションを大切にしていきます。

令和2年度 実習生・研修生受け入れ実績

〈ワークキャンプ〉→本年度活動要請なし

〈トレイやるウィーク〉→本年度活動要請なし

〈高校インターンシップ〉→本年度活動要請なし

〈その他〉(福祉体験学習等)

[団体名]	[実施日]	[人数]	[内容]
兵庫県福祉人材センター	12/21～12/22 12/24～12/25	1名	利用者とのコミュニケーション
ハーベスト医療福祉専門学校	8/25～10/7	5名	介護全般実習 (利用者コミュニケーション含む)

< 看護 >

今期のテーマ 安心安全な看護

今期計画 1. 情報を共有する
2. 看護の質の向上

1. 情報を共有する

- ・昨年度に引き続き処置表の書き換えは定着し、さらに継続が必要なことは付箋を利用し、統一したケアが出来た。
- ・利用者個々の情報共有に関して、申し送りノートの活用十分でなかった。昨年同様に各スタッフからの記入が少なかった。
- ・業務手順など医務室会議内で協議するようになり、統一できることが多くなった。今後も会議を通しスタッフ全員で協議しながら、業務の改善を図りたいと考える。

2. 看護の質の向上

- ・医務室会議内にて「ストマケアについて」「巻き爪の矯正について」「DESIN-R」について勉強会を実施出来た。
- ・外部研修はコロナ渦のため開催が少なかったため参加できなかった。

< 介護支援 >

今期のテーマ 残存能力を活かしたケアプランの展開

今期計画 1. ご利用者の持つストレングスに着目し、アセスメント・プランニング・プラン実行・モニタリングを実施する
2. 利用者の状態変化に即したケアプランを作成する

1. ご利用者の持つストレングスに着目したアセスメント・プランニング・プラン実行・モニタリングを実施する

本人の持つ残存能力を適切にアセスメントし、残存能力を活かすケアプランを作成した結果、食事摂取が全介助だった利用者が自分でお茶を飲めるように、食事も一口でも食べられるようになった。また移乗時、全介助だった利用者が介助バーを持ち、自分の力を使って移乗することで、下腿部の紫斑の発生が抑えられるようになり、ADLの向上に繋がった。

2. 利用者の状態変化に即したケアプランを作成する

体調不良や骨折での入院・加療も多かったが、退院時全ての退院者にケアプランの見直しができた。また褥瘡発生時・褥瘡治癒時、口腔衛生管理加算算定時、お看取り期等ケアプランを見直すことができた。

令和2年度 特養 介護支援専門員業務実績

カンファレンス（サービス担当者会議）

	回数	人数	家族参加回数	家族出席率 (%)	入所時	その他退院時	ターミナルケア			デス
							初回	モニタリング		
								人	回数	
R2.4	6	36	2	6.0	1	1	0	0	0	0
5	12	44	5	11.4	2	1	2	2	7	0
6	12	51	4	7.8	3	1	0	1	2	0
7	8	40	7	17.5	2	0	0	0	0	1
8	11	40	5	12.5	1	5	0	0	0	0
9	10	48	3	6.3	2	3	0	0	0	0
10	11	52	7	13.5	4	3	0	0	0	0
11	12	43	7	16.3	2	2	1	0	0	0
12	10	41	3	9.6	1	2	0	0	0	1
R3.1	11	59	7	11.9	5	3	1	0	0	0
2	8	37	2	5.4	1	0	0	0	0	1
3	11	72	4	4.2	3	1	0	0	0	0
計	122	563	56	9.9	27	22	4	3	9	3
月平均	10.1	46.9	4.6		2.2	1.8	0.3	0.2	0.7	0.25

変更申請更新申請認定申請代行数

R2.4	2
5	3
6	1 (宝塚市1)
7	1 (変更申請1)
8	5
9	2 (加西市1)
10	4
11	0
12	2
R3.1	0
2	2
3	1
計	23
月平均	1.9

認定調査数

R2.4	2
5	3
6	1 (宝塚市1)
7	1
8	5
9	2
10	4
11	0
12	2
R3.1	0
2	2
3	1
計	21
月平均	1.8

< 栄養 >

今期のテーマ おいしく、安全に最期まで食べる

- 今期計画
1. エビデンスに基づいた栄養ケア・マネジメント
 2. 給食委員会について

1. 栄養ケア・マネジメントの充実

看護・介護のアセスメントより、皮膚の乾燥及び皮膚の亀裂、便秘症状の利用者についての意見が多かった。改善に向けて、食事摂取基準の見直しを行った。

食事摂取量表

	エネルギー	蛋白質	脂質	炭水化物
令和元年	1500Kcal.	60g	38g	230g
令和2年	1550Kcal.	↓	40g	↓

2. 給食委員会について

給食委員会にて食事摂取基準の変更により、利用者への効果についての評価をおこなった。

今期事業結果

- ・ 各利用者のアセスメントから食事摂取基準を見直した結果、便秘に関しては色々な要因がある為、効果があったとは一概には評価できなかった。しかし、皮膚の乾燥している利用者が減ったとの好評価となったので、見直ししてよかった。
- ・ 給食委員会の場合での食事摂取基準見直しによる利用者の評価することについては、利用者の体調についての評価を看護・介護の他業種から聞くことができ、調理業務を受託している会社としては、栄養価を踏まえた調理業務の重要性について見直す機会があり、モチベーションが上がったように見えてよかった。

●デイサービスセンター

利用定員数 35名

介護職員数 9名 (男2名 女7名 内P職員1名)

看護職員数 2名 (男0名 女2名 内P職員1名)

今期のテーマ CHALLENGE

今期計画 延利用人員 7,775人(25人×311日)

1. 従来型デイからの脱却
2. 職員の資質向上
3. 稼働率65%の達成

1. 従来型デイからの脱却

多種多様なニーズに対応できるサービス提供を可能とする為、タイムスケジュールを一から見直し従前とは異なるサービスの提供の仕方を作れる基礎作りを行った。

今後は、個々の特性やニーズを捉え、小集団単位でのサービス提供を模索していく。

2. 職員の資質向上

3. 稼働率65%の達成

≪実績≫年間平均稼働率 56.05%

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用者数	475	394	512	537	525	576	621	563	410	427	436	527
稼働率%	52.19	43.29	56.26	56.82	57.69	63.29	65.71	64.34	53.24	50.83	51.90	55.97

新型コロナウイルスに翻弄された一年でした。

年度当初より緊急事態宣言が発出され、自粛等のご利用控えにより稼働率が大幅に下落。

解除後も三密を避けるため、一日の利用者数に制限をかけ感染防止策を講じながら試行錯誤の連続でした。

全国の感染者数減少後は、徐々に利用再開者が増えるとともに稼働率も上昇するが、12月に当職員の新型コロナウイルス陽性で四日間休業したことや、複数事業所を利用しているご利用者の新型コロナウイルス陽性にて稼働率が再度下落する。

新年にはいつてからも複数事業所ご利用者の長期入院が響き、また二度目の緊急事態宣言発出により、稼働率を上昇させられず。

来年度は新型コロナウイルスに翻弄されず、ブレのないサービスの提供に努めたいと思います。

●ケアプランセンター

介護支援専門員数 4名(男1名 女3名 内P職員0名)

今期のテーマ 稼働率76%を目指す

- 今期計画
1. 利用者・事業所に選ばれる居宅介護支援事業所となる
 2. 相談支援の専門性の向上
 3. 作成書類の効率化を構築

《実績》年間平均稼働率 74.23%

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介護件数	80	77	81	81	81	81	87	87	85	86	84	88
予防件数	33	35	36	37	37	47	45	45	48	45	46	44
稼働率%	75.39	67.50	70.71	71.07	71.07	74.64	78.21	78.21	77.86	77.50	76.43	78.57

1. 利用者・事業所に選ばれる居宅介護支援事業所となる

利用者や事業所に選ばれるために営業範囲を拡大し、明石市の地域包括支援センターに営業をおこない、利用者確保をおこないました。また、利用者の要望に合わせたサービスの紹介や調整をおこないました。

2. 相談支援の専門性の向上

他事業所との合同事例検討会をおこない、相談支援の視点や援助術について学んだ。

3. 作成書類の効率化を構築

介護ソフトを活用して、事例に合わせた文言のひな形登録を行い、ひな形からのケアプラン作成等をおこない、プラン作成の効率化を図りました。